



生徒の主体的な学びを支援する

—岐阜県立高等学校での1人1台タブレットの活用例—

岐阜県立岐阜商業高等学校 河野 綾音



<抄録>

コロナ禍で実施された岐阜県教育委員会ICT環境整備事業により貸与した生徒1人1台のタブレットを活用した「朝日けんさくくん」の活用事例（図書館オリエンテーション・ビジネス探究Ⅰ・書いて考える進路）について、利用方法を説明する司書の立場で報告する。

<キーワード>

学校図書館、新聞記事データベース、岐阜県教育委員会、1人1台タブレット事業、探究の時間、ビジネス探究Ⅰ

1 はじめに

本校の事例を述べるにあたり、まず岐阜県立高等学校全体のICT環境について解説し、その環境下における本校の「朝日けんさくくん」の活用事例を紹介する。

2 岐阜県独自のICT環境

岐阜県の県立高等学校のICT環境は令和元年度から徐々に整ってきているが、この新型コロナ流行に伴う一斉休校等でさらに整備が加速している。

令和元年度には全県立学校の普通教室等に電子黒板機能付きプロジェクター・Wi-Fi環境・書画カメラ・授業用タブレット端末が配備。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により4月当初から学校休業であったが、先んじたICT環境整備が奏功し、4月下旬から全県立学校でオンラインによる学習支援をスタート、オンライン会議室（最大900室）準備やLTEタブレット（1,100台）の貸出が順次行われ、すべての児童生徒が自宅にて受信を可能とするオンライン学習支援が開始された。

令和2年度後半には、国のコロナ臨時交付金などの活用によって、すべての県立高校及び特別支援学校の児童生徒約4万2千人に1人1台タブレット端末の貸与が完了。令和3年度には「1人1台タブレット端末活用元年」と位置付け、ICT環境を活用した授業改善などの教科指導等が行われた。また図書館管理システムについては、県内各校が独自に市販ソフトや書誌データを使用して電算化を進めていたが、平成28年度に特別支援学校を含むすべての県立学校に同一のシステムが導入され、自校の所蔵検索だけでなく、学校間の横断検索ができるようになっていく。

3 岐阜県立岐阜商業高等学校 概要

明治37年（1904）年に開校した本校は令和6年に創立120周年を迎える公立の商業高校である。岐阜市内には市立の岐阜商業高校があるため、地元では「岐阜商」と親しまれている。

教育目標として『商業教育（資格取得）』『部活動』『進路達成』への真摯な取り組みを通じてビジネスリーダーたる資質と素養を育み、予測困難な未来をたくましく生き抜く力を身に付けた生徒の育成を目指す』を掲げ、設置学科・定員は流通ビジネス科、ビジネス情報科、会計科、グローバルビジネス科の全校生徒数約1,080名。県内では大規模校であり、卒業後の進路は進学8割、就職2割である。

県下各地の中学校から集まる生徒は素直で目的意識がはっきりとしている生徒が多く、資格取得・部活動等に日々励んでいる。部活は運動系、文科系、商業に関する技術の生産系それぞれが全国的に活躍しており、今年度は特に硬式野球部の甲子園出場、簿記部の全国簿記競技大会の個人の部優勝、吹奏楽部のマーチングバンド全国大会出場という活躍があげられる。

4 図書館概要と新1年生へのオリエンテーション

本校の図書館は最大42人の座席数で、市内の高校の中では最も狭い図書館であり、蔵書数も図書室に1万8千冊、書庫に8千冊ほどで少ないほうである。それにもかかわらず生徒の貸出冊数は年間7千~1万冊あり、よく利用されている。商業科の高校ということで、新しい知



写真1 1年生へのオリエンテーションの様子

KONO, Ayane : 岐阜県立岐阜商業高等学校 学校司書（岐阜県岐阜市則武新屋敷 1816 番地 6）

識や情報を得る意欲の高い生徒が多いためではないかと感じている。

新1年生に対しての働きかけは4月下旬の図書館オリエンテーションから始まる。今年度は18日～22日に各クラス1時間で実施した。

例年であれば図書館の使い方や利用マナーについての説明にとどまるが、今年度からは前述の「1人1台タブレット」事業で貸与されたタブレットを利用したオリエンテーションを実施している。この時間では全員が「朝日けんさくくん」を自分のタブレットで使えるかを、司書が確認しながら、案内している。

5 ビジネス探究Ⅰでのオリエンテーション

今年度入学の1年生から新カリキュラムで「総合的な探究の時間」を「ビジネス探究Ⅰ」として位置づけた科目が必修となった。課題の解決方法や手段を考え分析する主体的な学びを通じて、探究の基礎的な技法を身に付けることとなっている。

1年間のカリキュラムは、

4月：ガイダンス「ビジネス探究とは・ICTの活用」
「資料の探し方」

5月～9月：基礎研究「業界を探究する」
対象業界は小売業・物流業

この後、10月は「企業探究」として野村證券の方を交え、企業を探究する授業が行われる。

図書館では4月21日に1年生全クラスへのオンライン一斉授業の形の「ガイダンスⅡ」で、司書が「資料の探し方 ～本・新聞・雑誌の調べ方～」の説明を行った。内容は以下の5点である。

本日の内容

1. 情報とメディアの特性について知る
2. 「新聞」について知る
3. 朝日新聞の記事データベース
「朝日けんさくくん」を使えるようにする
4. 「本」をさがす 国会図書館のサイト紹介
5. 電子書籍の紹介 岐阜県図書館のサイト紹介

図1 ビジネス探究Ⅰでのパワーポイント資料

特に3の「朝日けんさくくん」について、このあと生徒が自分のタブレットから新聞記事を検索しPDFファイルとして保存するため、検索キーワードを「ユニクロ」と設定した想定で、詳しく説明を行った。

この後生徒は自分で研究テーマ（例：「ユニクロはオンラインで販売しているのになぜ実店舗も展開しているのか」）を設定し、資料収集して分析をする。図書館では生徒が情報を探しに来る都度サポートを担った。

6 2年生へのオリエンテーション

2年生は進路指導部と国語科のタイアップ行事の「書いて考える進路」があり、例年6月のLHRで600字の文章を書く民間模試を受験する。

テーマは「最近の気になるニュース」で、生徒は事前準備として「国語総合」の1～2時間で自分の興味ある記事を探すことになる。図書館では生徒が自分の進路に関係する最近の新聞記事を検索できるようサポートする。

「朝日けんさくくん」を導入する以前は、図書館で保存していた新聞からそれぞれが気になる記事を切り取って準備していたが、導入後はまず図書館でデータベースのオリエンテーションを行って、検索方法をマスターしたのち、生徒は個々の記事を検索・保存し、模試に備えることとなる。今年度は6月13日～17日の間に、「国語表現」の時間を使って「朝日けんさくくん」のオリエンテーションを行った。

今年度は環境が整っていたので、クラス40人が一斉にアクセスしてもスムーズに検索できるようになった。



写真2 2年生へのオリエンテーションの様子

7 これから

今年度は新しく「ビジネス探究Ⅰ」での利用があったため、例年の倍以上のアクセスがあったと聞く。

最近では新聞を購読する家庭も減ってきているなか、岐阜県教育委員会は各高校図書室に新聞4紙を購入する予算を令達している。本校は2017年度から3年間NIE実践校でもあったことから、授業内容に関連した新聞記事を要約して発表する教科もある。就職・進学で面接や小論文の準備に記事を探しに来る生徒も多く、新聞に対する関心は高い。今後も教員と連携し「朝日けんさくくん」に代表される新聞記事データベースの授業での積極的な活用方法を模索していこうと考えている。